

平成 24 年 9 月 4 日

「やまこし復興交流館（仮）」整備に向けて(経緯)

- 平成 20 年 4 月～平成 22 年 3 月
 - 社団法人中越防災安全推進機構において「メモリアル拠点整備委員会」を設置し、「中越メモリアル回廊」（4 メモリアル施設・3 メモリアルパーク）整備構想の検討を開始。

- 平成 20 年 12 月～22 年 3 月
 - 「メモリアル拠点整備委員会」の下部組織である「山古志地区整備検討作業部会」において、山古志地区メモリアル施設及びメモリアルパークの整備場所・整備方針等について協議開始（第 1 回～第 5 回）

- 平成 22 年 9 月～24 年
 - 展示内容・運営体制を検討するために「山古志地区メモリアル施設展示運営委員会」を設置し、議論を開始（第 1 回～現在、第 7 回）

- 平成 23 年 3 月 11 日
 - 「東日本大震災」発災。

- 平成 23 年 10 月
 - 中越大震災発生から 7 周年、「中越メモリアル回廊」（長岡震災アーカイブセンター・おぢや震災ミュージアム・川口きずな館 / 妙見メモリアルパーク・木籠メモリアルパーク・震央メモリアルパーク）をオープン。
 - 「やまこし復興交流館(仮称)」については整備場所・運営体制について引き続いて検討。
→「やまこし復興交流館(仮称)」を、中越大震災の経験と教訓を後世に伝える施設としての役割のほかに、地域経営をめざす交流拠点としての活用も視野に入れて、主に運営体制の面から、次世代の山古志を担う若手リーダーと協議開始。

- 平成 24 年 7 月
 - 「やまこし復興交流館(仮称)」の整備方針・運営体制を検討するため、「山古志地区メモリアル施設展示運営委員会」で委員会構成員を追加して再開。
→整備場所・整備方針・運営体制について合意。
→従来案にあった古民家については、国営越後丘陵公園に移設することで、所有者の長岡市と国営越後丘陵公園が合意し、準備を進めている。